

令和7年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
自分のよさを切り拓く子ども ①進んで勉強しよう ②思いやりのある人になろう ③丈夫な心と体をつくろう ④ふるさと(浦里)に学ぼう	自ら気づき 自ら問いかけ(考え) 自らやってみる 子どもに	
	今年度の重点目標	
	①	子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～
	②	自他のよさを認め合う場面の位置づけ
	③	運動・遊びの日常化
	④	地域と連携したふるさと学習

総合評価					
昨年度と比べて、児童の評価では、自己表現・互いに認め合える集団づくり・ふるさと学習の充実などで高くなった。また、今年度評価項目に入れた「自己有用感の育成」が、これまでの毎月のアンケートに比べ評価が高くなった。職員が意識して取り組むことで、効果があったのではないかと。全体的な傾向としては、低学年児童の評価が非常に高く、職員の評価が低い。職員の評価が低い部分については、具体的な改善点をもち、学校全体で取り組んでいく。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
職員が連携し児童理解を深め、個に応じた学びが充実してきているが、主体的な学びにはまだつながっていない面も見られる。		○			授業の振り返りを大切にすることによって、児童が自分の学びについて捉え、主体的な学びになっていくようにする。
「浦里小学校は全校が仲がいい」ということが子どもたちの誇りになっている。	○				自分のよさを認めることができ@る場を増やすため、自分で目標をたて振り返ったり、計画をしたりする場を大切にすること。
毎朝のマラソンに取り組む児童が増え、習慣化してきた。休み時間もおにごっこやドッジボールなど学年の枠を超えて楽しんでいる。		○			昨年度からの「みんなで遊ぶ日」の取り組みのおかげで、学年を超えて一緒に遊ぶことが増えているので、継続する。
名札をつけることで、お助け隊の方を意識する場面が増えている。どのように連携して願いや活動内容を共有するかが課題。		○			お助け隊の方に毎年やっていただいていることを継続してもらうだけでなくならないよう、子どもたちが願いをもって活動できるようにする。

領域	対象	評価項目	評価の観点
重点目標	①	学習に向かう姿勢	基礎基本の力をつけ、子どもが粘り強く学習に取り組めるよう支援したか。
		自己表現する力	一人で考えたり、意見を共有したりする場面をとるなどして、自分の考えを表現できるよう支援したか。
		個別最適な学び	一人一人の学び方の個性を生かしたり、合理的な配慮に基づいた学習を保障しているか。
	②	異年齢の友だちとの活動	縦割り班、連学年授業、連学年担任制、こまゆみ教室、保育園との交流などを通して、相手を思いやる意識を高める場面が設定できたか。
		コミュニケーション能力の育成	人権感覚を磨き、互いに認め合える集団づくりができたか。
	③	体力づくり・遊びなどの日常化	マラソン、休みがき、休み時間の遊びなどの場面で、子どもたちが自分から体を動かすよさを感じるようにはたらきかけたか。
		健康増進への取り組み	歯科指導、栄養指導など、子どもたちが自身の健康に意識を向けるような学習を行ったか。
		自己有用感の育成	学級活動や児童会活動などを通して、自己有用感を育てられたか。
	④	ふるさと学習の充実	地域の方と連携し、教科横断的なふるさと学習を実施できたか。
学校運営	地域との連携	コミュニティー・スクール	授業や行事への参加を通して、学校運営に意見をいただき、その意見を教育活動の改善に生かしたか。
		PTA活動	コミュニティー・スクール実践目標のあいさつ・メディアとの関わりを重点に、学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
	研修	授業づくり研修	「(自ら)気づき 問いかけ(考え) やってみる」子どもを目指して、教科研究を行い、一人一人が授業改善を行ったか。
		非違行為防止研修	定期的に研修を行い、非違行為防止に日々努めているか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学習に対してねばり強く考える姿が増えてきているが、授業の振り返りが十分できているとはいえない。		○			職員で振り返りについての研修を行い、振り返りをなんのためにに行いどういう力をつけるのか。こういった視点で振り返るのかを学ぶ。
高学年は自信をもって意見を言うことに抵抗のある様子も見られるが、児童会などで、大勢の前で堂々と伝えられるようになっている。		○			川西小学校との交流を行うなど、相手意識をもって表現する場を多く設定する。
他の職員と情報を共有し、連携して指導にあたることができている。ICTを使用するなどの合理的配慮も増えている。	○				少人数のよさを生かし、引き続き一人一人の児童を全職員でみることを大切にしていこう。
縦割り班や連学年で、学年を超えて協力したり活動したりすることができている。掃除の時に、下級生にいていねいに声掛けをしている。	○				縦割り班や連学年での活動のよさがより生かせるよう、工夫を考えていく。
児童は友達を大切にしているという意識が高い。互いに認め合える集団づくりで職員のA評価がすくなかった。	○				自己肯定感の低い児童もいるため、授業や帰りの会を利用し、お互いに認め合える集団づくりを意識していく。
朝のマラソンは少しずつ定着してきている。休み時間も、学年を超えておにごっこやサッカーなどを楽しむ姿が見られた。		○			マラソンについては継続して児童会と共に声をかけていく。休つくり運動を継続できるよう朝の会などに組み込むことを考えていく。
健康週間などの取り組みは積極的に行うことができ、児童や保護者の評価は高い。		○			取り組みがその時だけのものにならないよう、夏休み中のチェックカードなど、継続して声をかけていく。
毎月の「自分を見つめるアンケート」では自己肯定感の低い児童がいたが、少しずつ肯定感があがってきている。	○				子どもの自尊感情を大切に指導を行うよう、職員は繰り返し振り返りや研修を行う。また、気になる言動は声をかけよう。
例年決まった活動にとどまらず、子どもたちのやりたい願いの実現に向け、協力していただけた。	○				時間の制約はあるが、子どもたちの願いを大切に、地域の方と事前打ち合わせをいねいに行い活動する。
学校運営協議会やコミュニティー委員会が報告で終わらず話し合いになるよう準備を行った。職員は連携し課題をもっていく。		○			「できる人ができる時にできる範囲で」という原則を大切にねばり強く呼びかけていく。活動のフィードバックも大切にしていこう。
学校保健員会でメディアコントロールについて考えた。家庭によって差が大きい。朝の見守り隊の方へのあいさつは向上してきている。		○			メディアコントロールについては、PTA子育て委員会と連携し継続して取り組む。あいさつは地域全体に広げていく。
ねらいの達成のための手段の一つとして、研修を行い、遠隔教育や交流学習、ロイノートを使用した協働学習に取り組んだ。		○			後期に授業公開を行う予定となっているので、お互いの授業を参観しながらよりよい授業づくりについて考えていく。
体罰については、どの立場からもないという結果だった。自分事として捉えられるように、研修の内容も工夫して取り組んでいる。	○				体罰はもちろん、児童の人権を大切に指導について学ぶことや、交通法規などについて繰り返し自分事として振り返る。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった